

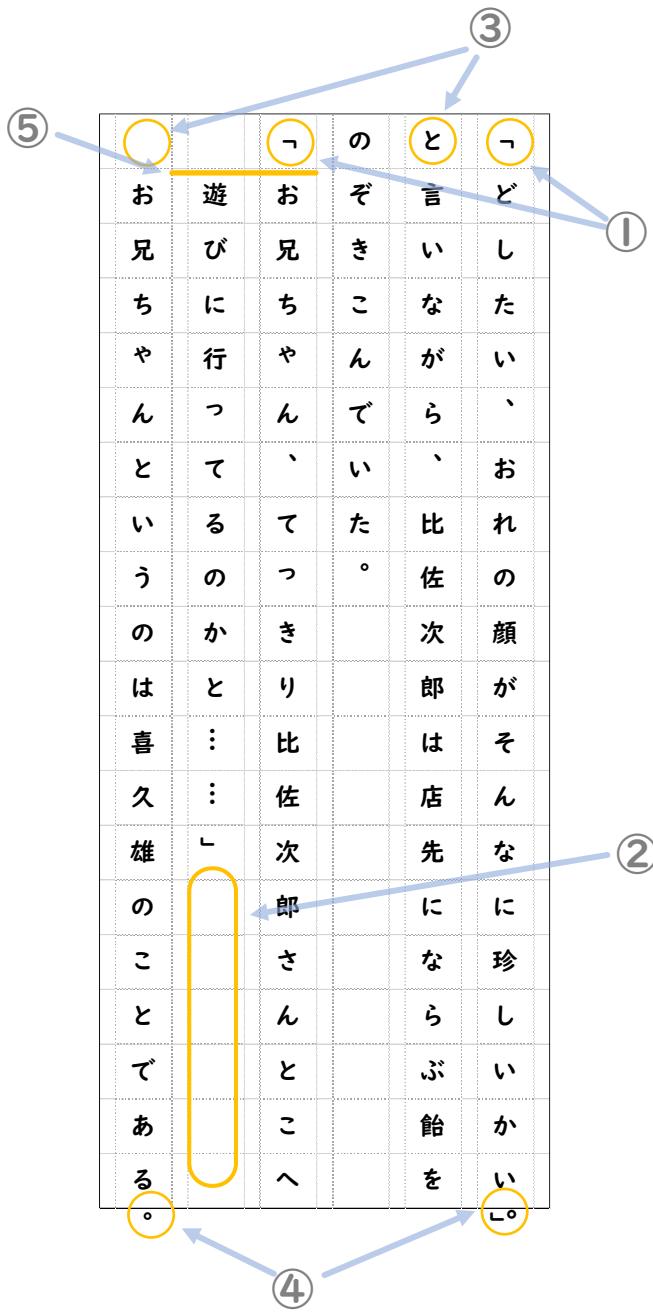
2 かぎかっこの使い方・文末表現 プリントー

会話文の「」（かぎ・かぎかっこ）を使った文を原稿用紙に書き直します。次のきまりをよく見て覚えましょう。

かぎかっここの使い方のきまり

令和4年版二年生の国語教科書では「かぎ」と表記されていますが、ここでは「かぎかっこ」と表記します。

- ① 始まりのかぎかっこ「」は一番上に書きます。
- ② 終わりのかぎかっこ「」の下には何も書きません。
- ③ 会話文の「」の次の行は一マス空けます。ただし、「と」で始まる場合は、「と」を一番上に書きます。
- ④ 「。」、「」は行の始めに来ないように、最後のままで、文字といっしょに書くか、ますの下に書きます。これを『ぶら下げ』と言います。
- ⑤ 会話文のかぎかっこの中身が二行以上続くときは、高さをそろえる書き方もありますが、一番上から書いてもかまいません。



2 かぎの使い方・文末表現

プリント2

国語のワーク5・6年生

プリントーの会話文の「」(かぎかつこ)の使い方のきまりの通りに、次の文章を書き直しましょう。

- ① 「喜久雄か。いやあ、うちには来てねえよ。どうかしたのかい。」「ええ、いつもこの時間には、かさねにお菓子を買っててくれるんだけどねえ。」かさねとは、今年十才になるお峰の娘である。

- ② 喜久雄にとつては姪に当たるのだが、喜久雄はかさねのことが可愛くて仕方ない。「そりやあ、来ない日もあるだろう。」そう言しながら、比佐次郎の目元に一瞬だけ深刻な光が宿った。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント3

国語のワーク5・6年生

次の各文には、会話文の「」（かぎかっこ）がありません。会話文の「」を付け加え、書き直し
ましょう

- ① 川に飛び込もうとした足を、誰かに引っ張られた徳兵衛は、そのまま橋の真ん
中にしりもちをつけ、止めないでください。死ななきやならないわけがあるんです。
と大きな声を出しながらまた川に飛び込もうとします。男は徳兵衛の着物を引つ
ぱって、そりやわけがあるんだろうがよ。ちょっとお待ち、お待ちってんだよ。と
言つて、徳兵衛を地べたに座すわらせます。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント4

国語のワーク5・6年生

② 男は大きくため息をつきながら徳兵衛に言つてきかせます。若い人はなんでもそ

うだ。すぐに自分が死ねばことがすむと思うんだよ。でもね、冗談言っちゃいけま

せん。後に残された者は困るんだ。もつとよくお考えなさい。また、道は開け……

んんん……おやあと言ひながら男が、徳兵衛の顔をじつと見ます。お、おまえ。徳

兵衛じやねえか。驚く男の顔を見て、徳兵衛も声をあげます。えつ、お、おじさん。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント5

国語のワーク5・6年生

③ おじさんと呼ばれた男は、おめえか……と言つた後に小さく舌打ちをして、おめえなら止めるんじゃなかつたよ。飛び込んじゃえ。したとそっぽを向いてしました。

徳兵衛とくべえは、あわてておじさんに手をつきます。助けてください。なんだよ。お前、今、死ななきやならねえわけがあるとそう言つてたよな。わけがあるんだつたらおじさん止めねえよ。ここで見ててやるから。はやく飛び込みな。大川の方を指さしながら

ぶつきらぼうに言いました。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント6

国語のワーク5・6年生

次の各文は、それぞれ常体と敬体で書かれています。

メロスは激怒した。必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮して來た。けれども邪惡に對しては、人一倍に敏感であつた。

「だ・である調」とも言います。

常体の文章は読み手に強い印象を与えます。

メロスは激怒しました。必ず、かの邪智暴虐の王を除かなければならぬと決意しました。メロスには政治がわかりません。メロスは、村の牧人です。笛を吹き、羊と遊んで暮して來ました。けれども邪惡に對しては、人一倍に敏感でありました。

敬体 「です・ます調」とも言います。

敬体の文章は読み手にやわらかい印象を与えます。

同じ文章の中で、常体と敬体をまぜて使うことはおすすめしません。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント7

国語のワーク5・6年生

次の各文について、常体で書かれている文は敬体に、敬体で書かれている文は常体に書きかえましょう。

① 親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。
おやゆず むてっぽう

② ゴーシュは町の活動写真館でセロを弾く係りでした。けれどもあんまり上手でないという評判でした。

③ ある日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、ひとりでぶらぶら御歩きになつていらつしやいました。
おしゃかさま ごくらく はずいけ

④ 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなつた。信号所に汽車が止まつた。

2 かぎの使い方・文末表現

プリント7

国語のワーク5・6年生

国語のワーク 5・6年生

⑤ 山椒魚は悲しんだ。彼は彼の棲家である岩屋から外へ出てみようとしたのであるが、頭が出口につかえて外へ出ることができなかつたのである。

⑥ 木曽路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曽川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。

ここにある①から⑥の文は、すべて有名な文学作品の書き出しえです。次の作品に合うと思う番号を「」に書きましょう。

『蜘蛛の糸』 芥川龍之介 「」『坊ちゃん』 夏目漱石 「」

『夜明け前』 島崎藤村 「」『雪国』 川端康成 「」

『セロ弾きのゴーシュ』 宮沢賢治 「」

『山椒魚』 井伏鱒二 「」

さくらぶりんと